

第8章 労働日

第1節 労働日の諸限界

p93-労働力の価値＝商品価値と同様その生産に必要な労働時間によって規定される。

- ・われわれは、労働力がその価値どおりに売買されるという前提から出発した。その価値は、他のあらゆる商品と同様に、その生産に必要な労働時間によって規定される。したがって、労働者の平均的な日々の生活諸手段の生産に6時間を必要とするならば、労働者は、彼の労働力を日々生産するためには、平均して1日あたり6時間労働しなければならない。

p94-労働日(ab+bc)は可変量である。労働日は規定されうるものではあるが、それ自体としては定められないものである。

- ・ a _____ b _____ c
 (必要労働時間) (剰余労働時間)
- ・ 剰余価値率＝剰余労働時間／必要労働時間 (=可変資本)
- ・ 労働日は、決してこの最低限 (b) までは短縮されることはない。

p95-労働日の最大限度…①肉体的限界②精神的・社会的な諸制限。ただしこの二つの限界は弾力的で変動可能

p96-資本家は人格化された資本。彼の魂は資本の魂。

- ・ 資本は、生きた労働の吸収によってのみ、吸血鬼のように活気づく、死んだ労働である。

p97-99 商品交換の「権利と権利」(買い手と売り手) という二律背反が生じる。

- ・ かくて資本主義的生産の歴史においては、労働日の標準化は、資本家階級と労働者階級の闘争として表れる。

第2節 剰余労働に対する渴望。工場主とボヤール

p100-101 資本家が剰余労働を発明したのではない。

※ボヤール…ロシアやルーマニア(ワラキア地方含む)などの領主・貴族
シチリアのディオドロス・シクル「歴史文庫」

エトルリア…紀元前8世紀から紀元前1世紀ごろにイタリア半島中部にあった都市国家群
ノルマン人…スカンディナヴィアおよびバルト海沿岸に原住した北方系ゲルマン人
徭役(ようえき)労働＝賦役労働

- ・ 使用価値が主たる地位にある場合には、剰余労働は欲望範囲によって制限される。
※過度労働・致死労働の強制は古代世界では例外である。
- ・ 資本主義的生産様式支配されている世界市場→奴隷制・農奴制は野蛮な残虐の上に、過度労働の文明化された残虐が接穂される。
※例…黒人労働。7年間の労働で生命を消費。「剰余価値そのものの生産」が肝要に

p102-103 剰余労働－徭役(賦役)労働と工場労働との区別

- ・ (工場労働) 1労働日…剰余労働と必要労働とは、互いに解け合っている。
- ・ 徭役(賦役)労働…場所的に分離され、剰余労働は必要労働から明確に区分されている。
- ・ 農奴制は徭役(賦役)労働から発生した。

p104-105 レグルマン・オルガニク(賦役労働の法典)のごまかし

土地所有者は、ある分量の現物貢租のほかに

- ・義務…① 12日の一般労働日+② 1日の耕作労働+1日の木材運搬=年に14日
- ・しかしレグルマンは、実質3倍の42賦役日と解釈。
- ・さらにヨバギー（追加的賦役労働）の14日が加わり→総計56(賦役)労働日となる。
- ・年間の農耕地数は210日→悪天候などで実質農耕地数は140日。→必要労働日は84日。
※56/84は66%3分の2(66.6666…%)=法律で規定された賦役労働。
これはイギリスの労働者より剰余価値率よりも、はるかかに低い。
- ・さらにいくつもの「ごまかす術」を知っていた。

p106-イギリス工場法は、(剰余労働に対する)渴望の消極的表現である

- ・レグルマン・オルガニクが、剰余労働に対する渴望の積極的表現であり、合法化したものとすれば…。
- ・(工場法は)労働力を無制限に吸い取ろうとする資本の衝動を制御する。
- ・盲目的な略奪欲が国民の生命力の根源を奪っていた。
※兵士の身長低下。耕地への(無制限な)肥料(グアノ)の注ぎ込み=土地の疲弊

p107-113 工場監督官の報告…労働時間の「盗み取り」

※1850年の工場法。平均10時間を許容している。

・詐欺的な工場主は

平日…午前6時前(15分)+午後6時以降(15分)+朝食時(10分)+昼食時(10分)で計60分。

5日間で合計300分(5時間)

土曜日…午前6時前(15分)+朝食時(10分)+午後2時以降(15分)で計40分。

1週間で340分(5時間40分)→年50週間で270時間=27労働日を「盗み取る」

- ・毎日5分ずつ延長→1年には2生産日半
- ・毎日1時間の追加は、1年の12カ月を13カ月にする。
- ・恐慌の期間…時間が少ないほど、ますます多くの剰余労働時間が作業させられる。
※1857-58年恐慌期、1861-65年の綿花恐慌の時も…
- ・法定時間を超える過度労働によって得られる特別利潤は、抵抗するには余りに大きい誘惑。
※一日中少しずつ盗むことの累積…

p114 人格化された労働時間…全時間工と半時間工

- ・全時間労働する労働者は「全時間工」と予備、6時間しか労働することを許されない13歳以下の児童を「半時間工」つ呼ぶ。
- ・労働者は、ここでは人格化された労働時間以上の何物でもない。